



農村振興及び 自然教育のため の棚田ブラン ディング

東京大学農学部国際開発農
学専修4年

野田坂秀陽



概要

1. はじめに

1. 農村の多面的機能。美しい景観や自然教育。
2. 農村の人口減少により、多面的機能が失われつつある。
3. 農村の農地を子供が遊べる場所にすることで解決できる？

2. 目的

1. これからは、都会の子供と農村の自然を繋げたい。
2. そのために、農村での「遊び」を現代風にデザインしたい。

3. 活動報告

1. 農村の棚田を使って、地域の子供が遊べるイルミネーションイベントを開催した。
2. インターネットによる観測や電球の点灯をコントロールする仕組みを試作した。

4. 今後の展望

1. 今後はインターネット配信や遠隔操作を導入して、都会の子供が遊べる形にしたい。

1.はじめに

農村の多面的機能



1.はじめに

都市化により失われる「体験学習と教育の機能」



農村での遊び

- 動植物との関わり
- 想像力が伸びる
- ×高リスク

都市での遊び

- △動植物との関わりがない
- △手軽に楽しめる。
- 低リスク

情報通信技術により、農村の「体験学習と教育の機能」を現代にデザインする。

農村の「体験学習と教育の機能」を満たす要件

- 自然との関わりがあること。
- 想像力を伸ばせること。

情報通信技術の利用のための要件

- ICT無しでは到達不可能な人々へも、上記の機能を提供する。

3. 活動報告

1

農地での「遊び」を提供する企画のブランドデザインを行った。



2

棚田休耕地でのイルミネーションイベントを行った。



3

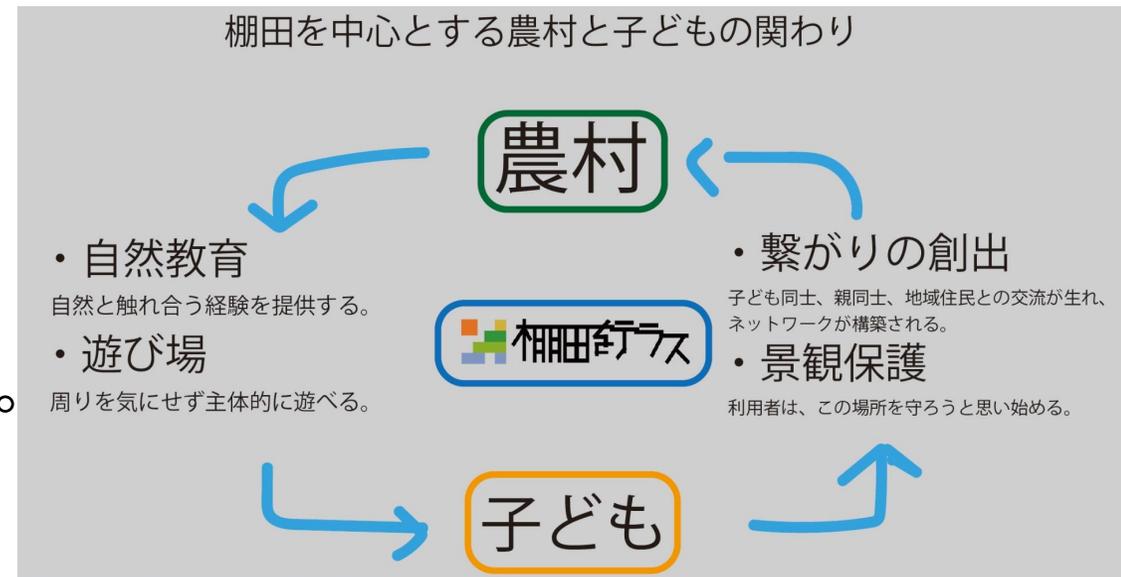
水田用のイルミネーション装置を試作した。



1 農地での「遊び」を提供する企画のブランドデザインを行った。

コンセプト

- 子どもの視点
 - 子どもが遊びながら、主体性と自然環境への知識を身に着ける機会。
- 農村の視点
 - 都市住民との接点。
 - 農村の自然環境への保護意識の向上。



1 農地での「遊び」を提供する企画のブランドデザインを行った。

□ □

- イラスト
 - 太陽
 - 春夏秋冬の棚田の色をイメージ
 - 冬こそ（イルミネーション等で）明るく楽しめるといふ点で、冬が1ピース抜けて太陽になっている。
- 文字
 - 繋がりを重視し、各文字間を一本の線につないでいる。
 - イルミ等で明るく活用するので「照らす」
 - 人が気軽に集まる場所なので「テラス」



2 棚田休耕地でのイルミネーションイベントを行った。

農村地域の拠点で小規模イベントを開催。

- 拠点
 - 岐阜県八百津町赤薙の古民家、棚田(耕作放棄地)
- 活動内容
 1. ヒアリング
 2. 古民家の整備
 3. 休耕地の草刈り
 4. 休耕地イルミネーションの開催



3. 活動報告

2 棚田休耕地でのイルミネーションイベントを行った。

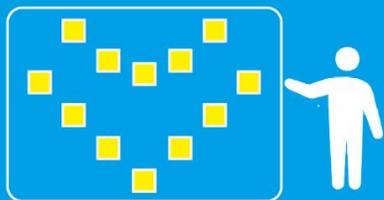
1. 絵を描く



2. ライトを田植え



3. 作品を発表



2 棚田休耕地でのイルミネーションイベントを行った。

- 参加者
 - 古民家の集落の子供3人と親御さん
- 参加者の声
 - 夜の棚田で子供を遊ばせたのは初めてで、新鮮だった。
 - 模様を描いていくのが楽しかった。



2 棚田休耕地でのイルミネーションイベントを行った。

- 出来たこと
 - イルミネーションイベントを開催できた。
 - 地元の人たちが楽しんでくれることが分かった。
 - 農村の子供と農地を繋げることが出来た。
- 出来なかったこと
 - 都会の子供と農地を繋げること。

3 水田用のイルミネーション装置を試作した。

1. 水田に10m×10本のLEDテープ（1mあたり30個のLEDチップ）を設置。
2. Arduino,ESP32を接続し、オンライン経由でオンオフ切り替えが可能。
3. Wifiカメラで遠隔観察



3. 活動報告

3 水田用のイルミネーション装置を試作した。

3. マイクを接続し、周りの音に反応。



3 水田用のイルミネーション装置を試作した。

課題

- 通信が途切れてしまうことが多々あった。
- オンラインで操作できるのがオンオフだけ。

そのため、目標としていた、都市からLEDを操作してwifiカメラで観察することは、実現できなかった。

将来の展望

- 通信や動作を安定化させる。
- オンラインで、光るLEDの色や位置を自由に変更られるようにする。



4. 今後の展望

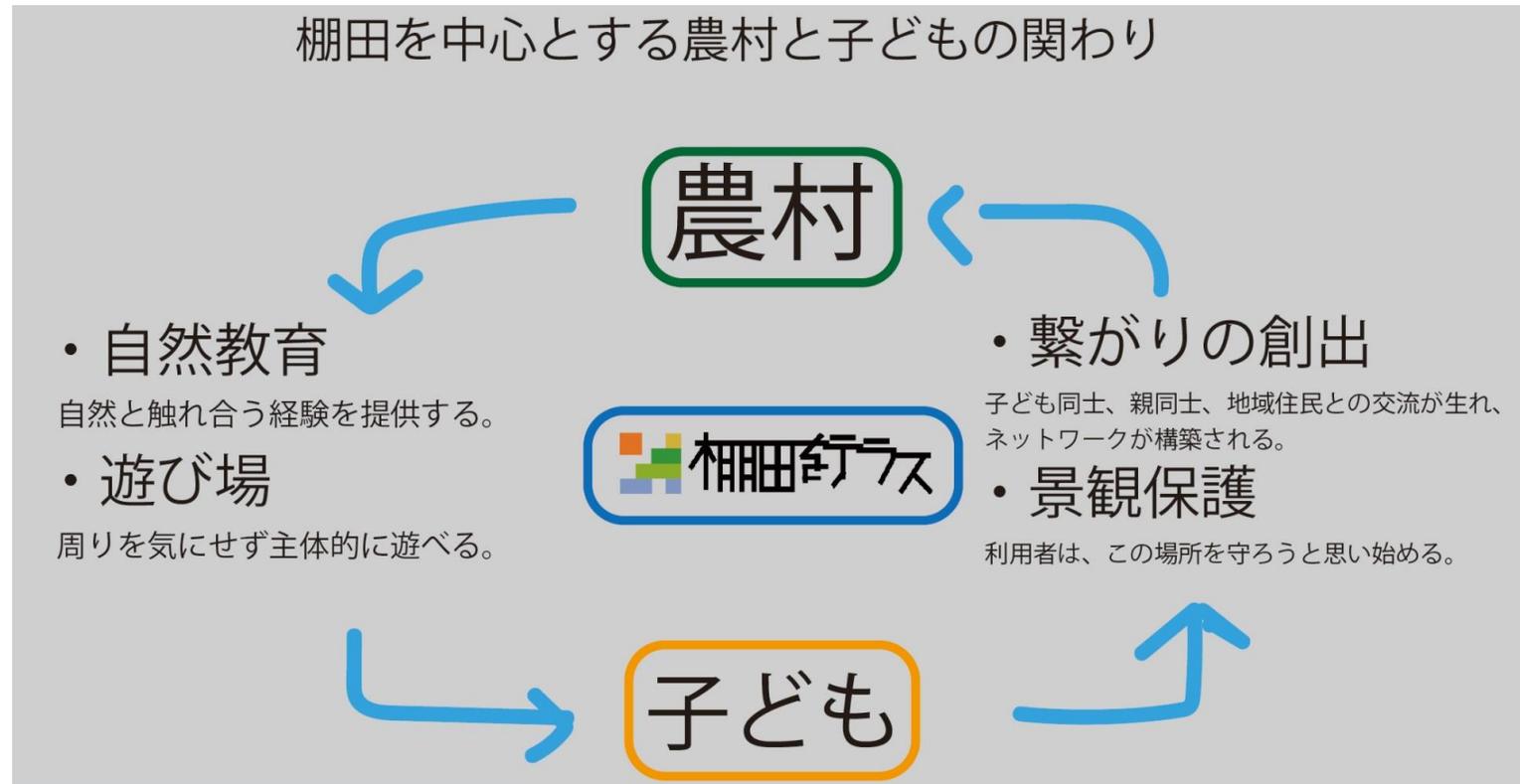
都会の子供と農地を繋げるために...

今後取り組みたいこと

- イルミネーションイベントなどをオンラインで配信。
- オンライン上でイルミネーションを操作可能にする。

まとめ

農村の「体験学習と教育の機能」を日本中の人々が享受できる社会に。





4. 今後の展望

ご清聴ありがとうございました。